

Enjoy 自転車 life in Kyoto



京都市の自転車安全教育

～行政の視点で～

京都市 建設局
自転車政策推進室
自転車企画課長
山崎 正和

1 京都市の自転車安全教育に関するこれまでの取組

平成26年度

自転車政策推進室発足，京都・新自転車計画策定

「教習所を活用した自転車安全講習」開始

平成27年度

自転車の安全利用に関する業務を所管

「第4回自転車利用環境向上会議in京都」開催

「パパママ自転車べんきょうかい」開始

平成28年度

ルール等啓発冊子「Enjoy 自転車 life in Kyoto」発行

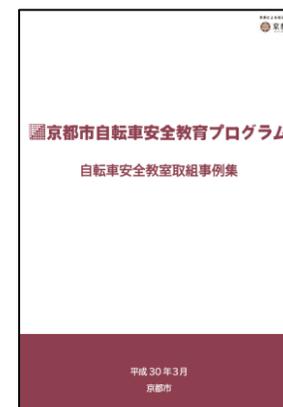
「『見て分かる！』自転車安全教室」開始

「キックバイクを用いた子ども自転車教室」開始

平成29年度

京都市自転車安全教育プログラム 策定

「自転車安全教室（事故のリスク・社会的責任編）」開始



2 京都市の自転車安全教室



スケアード・ストレイト方式
による自転車安全教室
(平成23年度～)



自動車教習所を活用した
自転車安全講習
(平成26年度～)



パパママ自転車
べんきょうかい
(平成27年度～)



「見て分かる！」
自転車安全教室
(平成28年度～)



キックバイクを用いた
子ども自転車教室
(平成28年度～)



自転車安全教室
(事故のリスク・社会的責任編)
(平成29年度～)

3 京都市の自転車安全教室の開催に向けた取組

政策面のポイント

H26年度、市長のリーダーシップにより自転車政策が強化された。
新設された自転車政策推進室では、新しい自転車計画を策定し、計画の大きな柱として自転車安全教育を位置付けた。



計画を策定することで、庁内での理解が進み、大きな方向性として自転車安全教育を推進することが認知された。

財政面のポイント

教室開催に当たっては、まずは試行事業から始めることとし、その評価を実施した。その結果を活用し、ステップアップした内容で予算要求を行った。



教室を試行開催することで、具体的な評価を得ることができ、本格開催に向け、現実的で説得力のある予算要求が可能となる。 ⇒ 「正のスパイラル」

① キックバイクを用いた子ども自転車教室（幼児向け）

平成28年度

平成28年10月に京都市内で開催された、国際交通安全学会主催の「デンマーク式自転車教室」を参考に、試行的に市営保育所1箇所を実施

平成29年度

前年度の試行実施が好評だったため、実施体制及び内容を見直したうえで、市営保育所で実施

平成30年度

実施対象を市立幼稚園，私立幼稚園に拡大して実施



保育所の所長並びに職員等にアンケート及び聞き取り調査を行い、実施する学年や、配慮が必要な幼児の状況等に併せて、逐次実施プログラムの改良を行っている。

② 「見て分かる！」自転車安全教室（中高生向け）

平成28年度

自転車での行動範囲が広がり、事故のリスクが高まる世代である中高生を対象に、自転車通学が認められている中学校など2箇所で開催実施

平成29年度

市立中学・高校全体に募集を行い、拡大実施

平成30年度以降

本教室をベースにした、中学生向けの新たな自転車安全教育教材の開発、通常授業での導入の検討



実施した学校の生徒にアンケート調査を行い、もっと知りたかったことなどの意見を参考に、今後実施する教室に反映している。

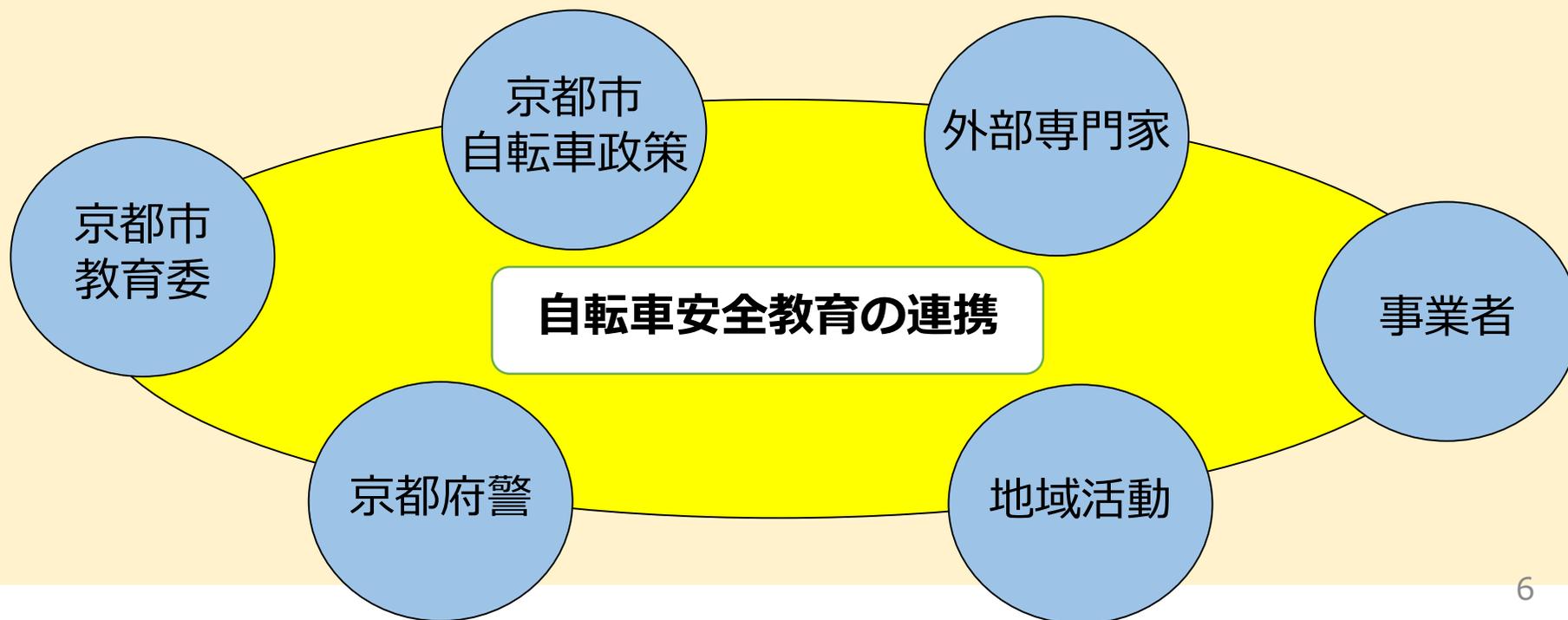
3 京都市の自転車安全教室の開催に向けた取組

連携面のポイント

京都市域では、京都市単独の取組以外に、学校教育現場での取組、京都府警による交通安全指導の取組、また地域での交通安全の取り組みなど、多くの自転車に関する安全教室が開催されている。



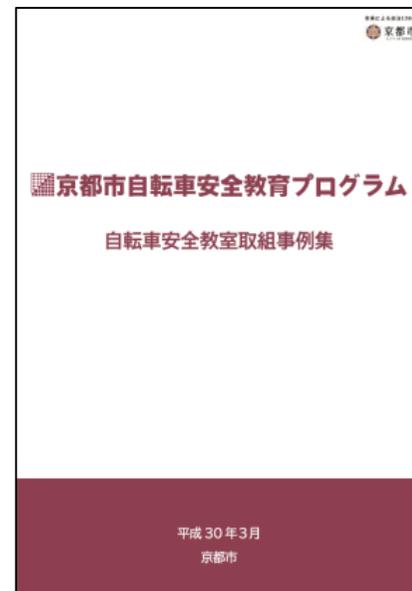
関係機関等と連携することで、多くの自転車安全教室を開催することができ、全体として自転車安全教育の充実を図ることができる。



4 京都市の自転車安全教育のこれから

◎ 京都市自転車安全教育プログラム に基づく取組の推進

子どもからお年寄りまで、ライフステージごとに、教える主なポイントをまとめた自転車安全教育に関するプログラムを策定しており、関係機関等とも連携しながら、このプログラムに基づく自転車安全教育の充実を図る。



◎ サイクルセンターの開設

誰もが自転車と触れ合え、安全な乗り方をいつでも楽しく学べる常設の施設として「サイクルセンター」を平成32年度に開設予定であり、同施設を活用し、親・子・孫3世代で自転車のルール・マナーを楽しく学べる教室やイベント等の実施を目指している。

京都新聞記事
29.11.30

大宮交通公園に 自転車教育拠点

京都市は29日、北区の大宮交通公園内に自転車安全教育の拠点となる「サイクルセンター」を新設する方針を明らかにした。北消防署の移転を含む同公園の再整備の一環。門川大作市長は29日の市議会本会議で「2020年度の開設を目標」と表明した。

京都市長表明 20年度開設へ

市中心的な位置が中心で、学生が多いことなどから他都市に比べて自転車の利用が盛んで、15年の京都新自転車計画によると、通勤通学の手段に自転車を使う割合が23.4%に上り、政令指定都市では大阪市に次いで高い。交通事故全体に占める自転車関連事故の割合も全国平均を上回っている。

市建設局によると、設置場所は、子どもが交通ルールを学ぶ「カーナビゲーション」のある公園の中央部や南西部を想定している。実際に自転車で乗ることができ、広さの場所を確保する。同公園は開園から50年近くたち、「カーナビゲーション」が老朽化しているが、「存続の是非は市民が決めよう」として、有識者でつくる市都市緑化協議会が今年8月、「市内唯一の交通公園の設置については引き続き、自転車の安全教育を中心とした新たな交通安全施設を設けるべき」と市に要望していた。

(相良 龍樹)

代表者として自転車の乗り方、ルール・マナーを教育する施設を建設し、受け取るべきだと強調した。門川市長は「全国の先進モデルとなる自転車安全教育の拠点となるべく、北消防署の移転を機に20年度中の開設を目標」とも表明した。